

## ■「効果の見える治水事業」

□高知県 三崎川水系 西ノ川通常砂防事業

『災害から復旧まで』



高知県防災砂防課 課長 さくらい わたる  
桜井 亘

### <被害の状況>

平成13年9月5日夜より、西日本上空に停滞した活発な秋雨前線に向かって流れ込む暖気流が、台風16号から水蒸気の供給を受けながら、高知県西南部の狭い範囲に収束しながら流入したため(湿舌)、大気の状態が不安定となり、強い雨雲が次々と発生し、雷を伴った激しい雨が降り続いた。そのため、高知県西南部における5日からの降雨量は、多いところで総雨量615mm、最大時間雨量131mmを観測するなど、記録的な集中豪雨となった。この雨で土佐清水市などでは、各河川の上流域において山腹崩壊や沢抜けが多発し、下流河川へ流入した土砂が河床を上昇させたため、河川が氾濫し、甚大な被害をあたえた。土佐清水市を流れる宗呂川では、60cmしかなかった川の水位がわずか3時間の間に10倍の6mにもなり、まさに「寝耳に水」の水害となった。

被害状況としては、負傷者8名、家屋の全壊25戸、半壊・一部損壊275戸、床上浸水264戸、床下浸水540戸、また、一般家屋以外に保育園、小学校、中学校など公共施設も被害を受けたが、奇跡的に一人も犠牲者が出なかったのは、地域の固い絆、隣土士の助け合いがあったためである。

### <復旧へ向けた取り組み>

平成13年9月26日、被災した土佐清水市、宿毛市、大月町の河川、砂防、道路災害に関し、復旧方針、復旧方法、計画規模及び今後の防災対策などを検討し、災害に強いまちづくりを目指して、「平成13年9月高知県西南部豪雨災害検討会」を設立した。今回の豪雨では、流木による被害が甚大であったことから、計5回に及ぶ検討会において、砂防関係については、土石流対策とともに流木対策についても実施する旨提言が出され、土砂災害が発生した全ての溪流において、流木対策工を計画した。

なお、平成13年度に3水系6溪流で災害関連緊急砂防事業に着手、翌14年度には5水系11溪流で砂防激甚災害対策特別緊急事業に着手し、平成17年度からは4水系5溪流で通常砂防事業により災害フォローを実施している。

### <西ノ川における事業の概要>

- 実施内容 : 砂防えん堤 本堤工(堤長41.0m、堤高13.0m)、副堤工(堤長42.0m、堤高7.4m)
- 総事業費 : 337,300千円(内、激特砂防89,600千円、通常砂防247,700千円)
- 工事完成 : 平成20年1月



被害状況



砂防えん堤完成状況(下流から)

最後に、事業にご協力いただいた地域住民の皆さま、並びに関係機関の方々に心から感謝申し上げます。

## 談話室

### □大災害が教えてくれたもの

～歴史・文化・環境そして人の大切さ～



土佐清水市長 にしむら しんいちろう  
西村 伸一郎

土佐清水市は四国の最南端に位置し、黒潮が日本で一番最初に接岸します。市のほぼ全域が「足摺宇和海国立公園」に属し、南国の太陽とコバルトブルーの豊かな海、したたる緑などの美しい自然環境と私達は共生しています。ここには高速道路も鉄道も巨大リゾート施設もありませんが、土と潮の香りのする人情味溢れた暮らしがあります。

「ジョン万こと中浜万次郎」は、1827年に本市中浜で漁師の子として生まれました。そして1841年、足摺岬沖で漁の最中にシケに遭い漂流後アメリカの捕鯨船「ジョン・ハウランド号(ウィリアム・ホイットフィールド船長)」に助けられました。

その後、日本人初のアメリカ留学生として約10年間暮らした後、日本の開国とアメリカの民主主義や技術を伝える為に、鎖国中の日本へ決死の覚悟で帰国、維新の偉人坂本龍馬をはじめ中江民、植木枝盛、板垣退助、岩崎弥太郎などに大きな影響を与え、また、咸臨丸の事実上の船長として再渡米し、日米友好に努めるなど幕末から明治にかけて活躍いたしました。

本市は平成13年9月6日、「高知県西南部豪雨災害」の試練を受けました。

自然の猛威の前に人の力の小ささを思い知らされると同時に、市民はもとより全国から駆けつけていただいたボランティアの泥まみれの支援活動やその後の復興振りを目の当たりにして、人の力もまた無限であることを教わりました。

全国の皆様改めてお礼申し上げます。

この大災害で一人の犠牲者も出さなかった自治組織と地域連帯の伝統は、今後とも受け継いで行く必要があります。

なお、豪雨災害により壊滅的な被害を受けた日本最初の海中公園「竜串湾」では、環境省直轄の竜串再生事業が導入され、15年度から3か年の調査を経て地元住民参加の法定協議会も設立され、18年度より本格的な事業が展開されています。

豪雨災害復旧事業につきましては国、県関係者のなみなみなご努力により宗呂川、貝ノ川、益野川、三崎川とも、災害に強い川として復旧されましたが、国立公園、海中公園にそそぐ三崎川支流の西ノ川通常砂防事業は環境省の竜串再生事業にも大きな影響を持つものとして1日も早い完成が期待されていたものであり、このたびの事業完成に感謝しています。

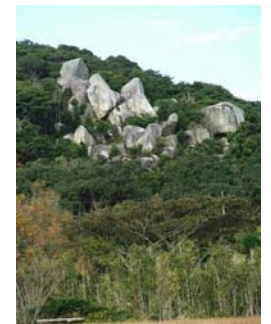
河を治める者は国を治めるとのたとえの通り、河川の安定は生活の安定に不可欠との認識を強くしています。



見残し海岸(奇石)



黒潮が日本で最初に接岸する足摺岬



唐人馬交易市场遺跡